

「恵庭市を舞台としたガーデンフェスタ北海道 2022 の取組み」

著者名 上山 謙太郎 所属 北海道恵庭市経済部全国都市緑化北海道フェア推進室

恵庭市は、道都札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置する、交通アクセスや豊富な水資源に恵まれた、利便性がよく自然豊かなまちです。また、人口は、令和元年には7万人を超え、人口減少社会にあって、道内でも数少ない人口が増え続けている可能性に満ちたまちです。恵庭では、昭和36年の「花いっぱい文化協会」の設立以来60年以上にわたり、市民が主役の「花のまちづくり」を進めてきております。

この「花のまちづくり」は、年とともに拡大発展し、「都市景観大賞」や「緑の都市賞」をはじめ数々の受賞を重ねながら「花のまちえにわ」の名が全国レベルに達しております。

ここでは、恵庭市をメイン会場に開催された「第39回全国都市緑化北海道フェア（ガーデンフェスタ北海道2022）」について取り上げます。

全国都市緑化フェアは、昭和58年以来毎年、全国持ち回りで開催されております。花と緑に関する国内最大級のイベントであり、北海道での開催は、昭和61年に札幌市の百合が原公園をメイン会場として開催されて以来、36年ぶり2回目であります。

また、全国都市緑化フェア開催中の中心的行事として、例年皇室の御臨席を仰ぎ全国都市緑化祭を開催しております。令和4年度は7月13日に佳子内親王殿下の御臨席を仰ぎ、式典や記念植樹などが行われております。

ガーデンフェスタ北海道2022は、メイン会場を恵庭市の花の拠点（はなふる）とし、北海道内の国立・道立公園や民間庭園32か所を「協賛会場」として、また、道内市町村がお勧めする花と緑のスポット20か所を「スポット会場」としてそれぞれ登録し、主催は北海道、恵庭市、（公財）都市緑化機構の3者で、令和4年6月25日から7月24日までの30日間、開催をいたしました。

花の拠点（はなふる）は、今回のガーデンフェスタ北海道2022のメイン会場として整備したのではなく、平成28年度から「恵庭の花観光の拠点となる施設」として計画され、平成30年度から整備が始まりました。北海道を代表するガーデナーにより設計された7つの庭がある「ガーデンエリア」、年間100万人が来場する「道と川の駅花ロードえにわ（平成18年開業）」、農畜産物直売所「かのな（令和2年4月新築

移転）」、観光案内所、こどもの遊び場、車中泊専用有料施設などがある「センターハウス」、ホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット北海道えにわ（令和4年5月開業）」などからなる令和2年11月11日にグランドオープンした恵庭の観光拠点であります。

ガーデンフェスタの期間中は、既存のガーデンエリアのほか、1,100㎡、2万5千株の「中央芝生広場花壇」や35の企業団体が出展し、「花と緑豊かなライフスタイル」をテーマにコンテストを行った「企業等出展庭園」、令和9年に横浜市で開催される国際園芸博覧会をPRする庭園、「華やかガーデン」をテーマに道内外12の自治体による出展花壇である「自治体出展花壇」、道内8つの自治体と恵庭市の姉妹都市・友好都市がそれぞれの魅力をPRする「市町村コンテナガーデン」、「幸せの花飾り」をテーマに一般公募した「コンテナガーデン」「ハンギングバスケット」など多くの花々が来場者を楽しませました。

このような全国規模の花と緑のイベントが恵庭市で開催できたのも、市民が主役の花のまちづくりを60年以上も続けてきたことが評価されてのことと認識しております。今回のガーデンフェスタにより市民の花と緑に関する意識もさらに高まったと考えており、より一層、花のまちづくりを進めていきたいと考えております。



中央芝生広場花壇



企業等出展庭園（国土交通大臣賞）